

## 第43回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成27年11月9日（月） 13:00-14:45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

島尻内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、酒井内閣府大臣政務官、松山内閣府事務次官、石原内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、島尻大臣及び酒井政務官から以下のような挨拶があった。

島尻大臣：

- ・ 今年1月に宇宙基本計画を策定して以来、宇宙政策は様々な広がりを見せてきた。私としても、10月13日に官邸で開催された「経協インフラ会議」において、「宇宙システム 海外展開タスクフォース」を立ち上げたことを報告した。
- ・ また、10月26日には、ITやベンチャー企業など幅広い分野の方々が集まる「スペースタイド」というイベントを内閣府が共催で行い、私も参加した。こうした海外展開や新産業創出の取組を通じて、宇宙産業が稼ぎ頭になることが期待されている。
- ・ 工程表改訂に向けて、宇宙基本計画が絵に描いた餅とならないよう、施策の一層の具体化を進め、年末をめどに工程表を改訂するよう安倍総理より指示を受けている。
- ・ 本日も活発なご審議をお願いしたい。

酒井政務官：

- ・ 宇宙政策は、子供のころには夢物語であったが、ここまで具体化してきていることに感動している。いずれも重要な政策であり、しっかり推進すべきである。
- ・ 加えて、私は防災の担当でもあり、防災面でも宇宙の利用が重要になっている。
- ・ 私自身も愛知県出身の政務官として、航空宇宙産業の将来には大きな可能性があり、日本の技術力を生かしていくべきである。

(1) 各部会の検討状況について

宇宙安全保障部会の審議状況について、資料1に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙民生利用部会の審議状況について、資料2に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙産業・科学技術基盤部会の審議状況について、資料3に基づいて山川部会長から報告を行った。主な意見等は以下の通り。

- ・ 宇宙インフラの提供者と利用者の距離を縮めていくための方策として、JAXAが行っている防災に関する連絡会議のような既存の取組との連携をより強化していくべきである。

- ・ 防災については大学等で研究がおこなわれているが、必ずしも意思決定プロセスに組み込まれていないため、大学等の組織に経験・知見の蓄積を行い活用していくことまで検討すべき。またこれは防災以外でも共通の課題である。
- ・ スペース・ニューエコノミー創造ネットワーク、通称S-NETについても民間ベースの情報を蓄積する場として、シーズとニーズをつなぎ、官と民が結合する一つの核として期待できる。なお、官も公共ニーズの提供主体として本取組を担う一員である。単に広く情報収集し、共有すればニーズが見つかるというのではなく、実際に作り出していく数名の積極的な活動が重要であり、こうした活動を支えるためにサポートを行うというものであるべき。
- ・ これは、宇宙システム海外展開タスクフォースに関しても言えることであり、国ごとに狙いを定め、こうしようというアイデアが最も大切であって、在外公館等の組織はこれをサポートしていくという位置づけではないか。

(2) 宇宙基本計画工程表の改訂（素案）について

宇宙基本計画の工程表改訂素案について、事務局より説明があり、審議を行った。審議の結果、「宇宙基本計画工程表（平成27年度改訂）（素案）」については、「国民的な理解の増進」等について意見があり、一部修正の上、委員会として了承された。なお、今後の修正については委員長一任となった。

以上